

# 令和4年度中部山岳国立公園上高地集団施設地区再整備基本構想策定業務

## 第1回公開ヒアリング有識者意見への対応表

No.	意見	対応	関連ページ
<b>中島 慶二 氏</b>			
1	ブランディングが成功している上高地の価値をさらに高めなければいけないのはなぜか。上高地の魅力を高めることは、地域の経済的な付加価値を高め、国立公園の利用拠点の持続可能性を高めることにつながる。国立公園では、保護と利用の対立を調整してきたが、その二つを循環させる必要がある。	ご意見を参考に、本構想が目指す姿や、詳細の取組等の検討を進めてまいります。	全体
2	観光客が増えた場合、環境へのインパクトを避けられない。保護と利用のバランスをとる必要がある国立公園では、観光産業の伸びは利用者数でなく消費額ではかるべきである。		
3	利用者層の拡大・体験活動の多様化、というのは、ニーズへの対応ということ。お客様、事業者、自治体と話し合い、色々なニーズを汲み取っていくのが必要になるのではないかと。	「真の上高地を伝えるIP計画とAll National Park Staff」の「②All National Park Staffに向けた情報共有」に記載の通り、地域全体でニーズを汲み取り共有する仕組みや体制づくりを推進します。	p17
4	通年化に関しては、冬の利用は厳しいのではないかと。付加価値の高い、特別感のあるツアーのみの利用や通常時は禁止しているドローンの利用許可（ガイド付き）などの工夫をしながら、当面は未開発のままよいのではないかと。	冬季の利用については、様々な課題がある中で引き続き検討を進めるにあたり、いただいた意見を参考にいたします。	p16
5	基本方針の具体的な内容については、地域関係者との意見交換を交えながら議論し、ビジョンの共有や共同策定が重要である。自然環境のモニタリングや民間の上高地の付加価値を提供できる人材の育成、ユーザーとのコミュニケーションの活発化など、ガバナンスの枠組みが必要である。	「真の上高地を伝えるIP計画とAll National Park Staff」の「①IP（インタープリテーション）計画の構築」で人材育成について記載し、地域関係者との意見交換を交えた検討を行いながら策定を進めて参ります。	p16
6	登山基地と山岳リゾートの両者に対応した整備が必要である。例えば、河童橋からの道は、雨の日は泥まみれでキャリーバッグを引いて歩けないため修繕が必要である。	「ユニバーサルデザイン対応の環境づくり」の「①バリアフリールートの設定と整備」に、舗装の整備等について記載しました。また、登山利用とリゾート利用の双方に配慮した整備を念頭に、「利用の分散と誘導」や「景観特性を生かした環境の整備」に取り組みます。	p30
7	見えるものから見えないもの（地史、自然の摂理、生態系の機能、生態系サービス）へのシフトとして、上高地の景観を見せるだけでなく、見せ方を練っていく必要がある。また、見ただけでは分からない魅力をどのように提供していくか、利用エリアやアクティビティを考え直す必要がある。	上高地の魅力やその発信方法の検討として、「真の上高地を伝えるIP計画とAll National Park Staff」の「①IP（インタープリテーション）計画の構築」に記載の通り、見えるものから見えないものの魅力を伝えるための取り組みを進めます。	p16,p20
8	魅力を高めるためには、利用環境の整備が必要である。別世界に来たような、天国のような、桃源郷のような囲まれ感が上高地の魅力の多くを占めているのではないかと。そのような演出が必要なのではないかと。	「ナショナルパークとしての設え」の「①「上高地」を感じることができる結界を生む設え」に記載の通り、取り囲まれるような自然の魅力をよりよく伝える、統一感の創出について取り組みを進めます。	p18
9	上高地は見上げる風景しかない。上高地はヨセミテ国立公園に似ているといわれているが、ヨセミテの場合、中腹から、見上げる風景と見下ろす風景があり、個人的には上高地にも欲しいなと思っている。このように、利用者の利用を想定した深掘りが必要である。	上高地の山岳は陰阻であり、溪谷を見下ろす位置への観光施設の整備には制約がありますが、新しい視点からの利用施設のあり方について、引き続き検討を進めていきます。	p26
10	生き物は国立公園らしい資源。近寄れない部分があるため、カメラなどを使い提供するのがよい。	「野生動物との共生」の「②野生動物とのかかわり方の学びの機会」にて記載しているとおり、上高地だからこそ可能な動物との向き合い方について「学び」と「気づき」をもたらす体験プログラム等の提供を進めます。	p32
11	ふるさと納税のような仕組みにより、上高地にベンチを設置してはどうか。	「多主体との連携による施設づくり・運営」の「②民間事業者と連携した施設づくり」に記載の通り、民間事業者や利用者の寄付や投資による整備のあり方を検討していきます。	p29

No.	意見	対応	関連ページ
<b>鈴木 みき 氏</b>			
1	国立公園とわかるような入口（ゲート）があるとよい。上高地バスターミナルが一般的にはメインの入口だと思われているが、象徴的なものがない。写真も結局河童橋で取る。バスターミナルに店、お土産屋があるが、立ち止まらないため、魅力的になるとよい。	「ナショナルパークとしての設え」に「①「上高地」を感じることができる結界感を生む設え」のほか「②エントランス空間の再編」を加え、領域性や統一感の創出、エントランス空間の演出に取り組みます。	p18
2	海外の国立公園には、人員を置いたゲートを通らなければいけない所がある。知床のようにレクチャーを受けなければ入れない場所も少なくない。それらがなくとも、明確な入口や看板、ゲートがあると上高地の領域性を生み出すことができるのではないか。		
3	各ゲートに国立公園のロゴを記載することで、公園利用者に「国立公園の中にいる」という感覚を与えることができるのではないか。また、日本全国の国立公園としてのブランディングの統一化が必要。		
4	初めて訪れる公園利用者は上高地へのアクセスが分かりにくいと思う。上高地バスターミナルや松本駅を玄関口とし、上高地、国立公園としての演出ができれば良い。		
5	バスの待機時に、利用者が楽しむ・くつろぐことができる仕組みや空間が必要である。		
6	上高地は登山者にとって聖地で特別な、一度は訪れてみたい憧れの場所で、登山者は観光客と違う考えで上高地に訪れている。挑戦する自分を送り出し、下山後に胸を張って帰る場所である。しかし、登山者にとって通過してしまう場所であり、こういうものを作って欲しいなどは考えておらず、どちらかというと、このまま、変わらないでほしいと思っているのではないか。景観、建物、登山道など維持管理に力を入れてほしいと思っているのではないか。	「多主体との連携による施設づくり・運営」の「①公園施設の長寿命化や安全対策」に記載するとともに、景観保全を念頭に置いた公園施設の維持管理について取り組みます。	p29
7	入山料などの新しい試みも上高地なら納得してくれる。そのくらいブランドがある。	「サステナブル社会の実現」の「④共生に向けた地域・体制づくり」に記載の通り、入山料の徴収等による維持管理体制の構築について検討を進めます。	p34
8	多言語、ユニバーサルデザインに対応した公園施設や展示とするべき。	「ユニバーサルデザイン対応の環境づくり」に「①バリアフリールートの設定と整備」、「②セルフガイド機能の創出、多言語対応の徹底」、「③トイレや乳幼児設備の充実化」など、ユニバーサルデザイン対応を進めます。	p30-31
9	基本方針の内容の優先度を明確にし、将来のビジョンを明確にするべき。	事業期間に基づいて優先度を整理いたしました。	全体
<b>若松 伸彦 氏</b>			
1	梓川の河畔林はケショウヤナギ、エゾヤナギといった国内の貴重種が生育している。上高地の豊かな河畔林は、様々な要因があるが、特に洪水等の攪乱により維持されているため、上高地独特の河畔林の維持には一部でも河道の変化を許容する場所も必要である。自然のシステムを許容する場所と、人間活動のためにコントロールする場所のメリハリが重要である。	ご意見をふまえ、「景観と調和した防災」の「②追加対策の検討」に、保全するエリア、保全システムの設定を追加し、今後の集団施設地区のあり方検討の際に考慮していきます。	p28
2	エリアごとに河川上昇、水害対策を講じるべき。例えば、集団施設地区には公園の利用施設が密集するので、護岸補強や建物のかさ上げ等のハード整備を行う。集団施設地区以外のエリアにおいては、ハード整備を行わず、河川氾濫等の攪乱を許容するべき。		
3	植物の個体を保護するのではなく、自然の仕組み（河川の氾濫等の攪乱）を守る視点が必要である。		
4	保護と利用のバランスについて、何を保護するのか？（何を守り、保護するのか）の優先度をつけるべき。	生態系や景観、利用状況等をふまえ、保護と利用のバランスを考慮した検討を進めていきます。	全体
5	利用施設の位置や規模等を変化させることで、上高地の生態系のシステム、景観、環境を保全することが重要である。		

No.	意見	対応	関連ページ
<b>堀 繁 氏</b>			
1	「山登りのための登山基地」と同時に「居心地よいリゾート基地」にしていかないと「世界水準」にはならない。	登山者と観光客の双方のニーズをふまえながら、整備等を検討していきます。	全体
2	一般利用者が最も使う「バスターミナル～河童橋の川側ルート」の全面プロムナードデッキ化を実施すべき。木道ではなく、広いウッドデッキを想定し、プロムナードの横にはカフェを誘致する。	「利用の分散と誘導」の「②既存施設、資源の利活用」や、「景観特性を生かした環境の整備」の「①魅力的な資源を堪能できる「場」の整備」に整理しております。利用状況やニーズ、実現可能性もふまえ、空間整備に取り組みます。	p23,p26
3	河童橋の両側のデッキ空間のメッセージ性（誰にどのような利用を提供するのか）が曖昧である。		
4	視点を兼ねた多様な休憩スペースを連続的に用意し、河童橋、穂高、焼岳の視点場を形成する。		
5	野外卓が林間に並ぶバスターミナル横園地すぐ前に川があるのに、なぜバスの横で休ませるのか。	「利用の分散と誘導」の「①インタープリテーション計画に沿った魅力的な滞留空間の創出」に整理しております。	p22
6	ベンチの数と密度はもてなしの基本であるため、歩道と併せてベンチも整備するべき。観光地においてベンチはマストであり、来訪者を歓迎する意味でもベンチの配置とデザインは力を入れるべき。		
7	プライオリティ（優先度）をつけるべき。	事業期間に基づいて優先度を整理いたしました。	全体
8	沢渡、新島々、松本駅のデザインの質を高くすることも重要である。	上高地集団施設地区外となるため本構想では記載ませんが、検討の参考といたします。	—
9	寄贈のベンチや手摺等に寄贈者のプレートを入れるのはどうか。（利用者の100歳記念、等々）	「多主体との連携による施設づくり・運営」の「②民間事業者と連携した施設づくり」にて、民間事業者や利用者の寄付や投資による整備について整理しております。	p29